

# William Faulkner in the 1940s: The Writer's Dilemma between the South and the United States of America

吉村, 幸

<https://hdl.handle.net/2324/4784374>

---

出版情報 : 九州大学, 2021, 博士 (文学), 課程博士  
バージョン :  
権利関係 :

氏 名	吉村 幸			
論 文 名	William Faulkner in the 1940s: The Writer's Dilemma between the South and the United States of America (1940年代におけるウィリアム・フォークナーの創作活動の軌跡－国家と南部に揺れる作家の苦悩)			
論文調査委員	主 査	九州大学	准教授	高野 泰志
	副 査	九州大学	教授	鶴飼 信光
	副 査	九州大学	准教授	武田 利勝
	副 査	九州大学	名誉教授	小谷 耕二

## 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文はアメリカ南部作家 William Faulkner の 1940 年代の作品群を新たに解釈することで、当時の Faulkner が抱いていた葛藤の正体を明らかにすることを目的としている。これまでの Faulkner 研究の中心は 1920 年代から 1930 年代に書かれた作品であり、作品の数も 1940 年代は先の年代と比べて少ないと言える。しかし 1940 年代はアメリカが第二次世界大戦と冷戦を経験し、大きく変化した時代であり、この時代の変化が Faulkner に多大な影響を与えているのである。本論文は作家のその変化を捉えようとする試みである。

第二次世界大戦前後に書かれたフォークナー作品は、これまで愛国主義に染まったプロパガンダとして低く評価されてきた。しかし Faulkner は国家への愛国主義的な感情だけでなく、それとは相容れないアメリカ南部の特色や南北戦争の敗戦の歴史をも作品に描き出している。第二次世界大戦が勃発すると、Faulkner は北部の影響を受けて変化する南部を描くことから、“Delta Autumn”に見られるように、南部から世界へと意識を向けるようになる。そして真珠湾攻撃が起こると Faulkner は兵隊に志願する南部の少年を描く“Two Soldiers”など愛国主義的な短編を書く。しかしこれらの作品には同時に南部の特色や北部との対立も描かれており、国家の一致団結を図る愛国主義的な感情とは相容れないのであり、本論文はその点を重視して再評価を試みている。

またこの時代、Faulkner は南部の特色を描くことだけでなく、個人についての考えを作品に描きこもうとしていたことを指摘する。“Shall Not Perish”など愛国主義的な作品の最後で Faulkner は国家を支える一個人を賞賛しているが、国全体ではなく、個人にも目を向けようとしていたのである。この時期に書かれたアメリカ先住民を描く物語は、寓意として Faulkner の個人およびプライバシーに関する考えが描かれていると論じている。

また冷戦期においてソビエト連邦はアメリカに存在する人種問題を批判しており、アメリカ政府は人種問題の解決を南部地域に迫っていたが、そのころに書かれた作品群は、一見人種問題の改善を示していると解釈できるものの、南部をアメリカ国内における独自の存在とする考え方も見て取れる。このように愛国主義的な感情を読み取れる作品を書きながらも、そういった風潮とは相容れない要素も同時に描いているのである。

このように本論文は Faulkner がアメリカ国家を一つにする愛国主義を打ち出しながらも故郷である南部の独自性に執着していることを示し、その葛藤が 1940 年代の Faulkner 作品に見て取れることを結論付けている。

以上のように、本論文はこれまであまり論じられることのなかった 1940 年代の Faulkner 作品を取り上げ、時代との葛藤の中で生み出された作品であることを明らかにしている。したがって本調査委員会は本論文の提出者が、博士（文学）の学位授与にふさわしいことを認める。